

□ 目 次 □

はじめに	2
『テレモーク』の考え方について	3
教科書の指導方例	4
第 1 課 アルファベット	7
第 2 課 アクセントをつけよう	9
第 3 課 そことあそこ	11
第 4 課 彼、彼女、彼(彼女)ら	13
第 5 課 だれが？ なにが？ どこで？	14
第 6 課 調子はどうですか	16
第 7 課 あなたのお名前は	18
第 8 課 イエスとノー	19
第 9 課 ちょっと伺いますが	21
第 10 課 いいですか？ だめです！	23
第 11 課 私の持ち物はどこだろう	25
第 12 課 これは私の家族です	28
第 13 課 どうか、～をください	30
第 14 課 あなたは何をしていますか	32
第 15 課 我が家の団らん	34
第 16 課 あなたはどこに住んでいますか	36
第 17 課 あなたはどこで学んでいますか	39
第 18 課 ロシア語が話せますか	41
第 19 課 パパはどこで働いているの	43
第 20 課 何が好きですか	45
第 21 課 あなたには電話がありますか	47
第 22 課 どこへ行くところですか	49
第 23 課 あなたは何が欲しいのですか	51
第 24 課 あなたのはどんな部屋ですか	53
第 25 課 昨日は何をしましたか	55
第 26 課 明日は何をしますか	57
第 27 課 今日はどんな天気ですか	59
第 28 課 これはいくらですか	61
第 29 課 誕生日おめでとう！	63
第 30 課 気をつけて行ってらっしゃい	65

『テレモーク』初級編 学習指導書

はじめに

本教材は、平成18年度に文部科学省の「高等学校における外国語教育多様化推進地域事業」により指定を受け、親委員会^{*1)}で定められたロシア語の学習目標、および本作業部会^{*2)}が採用した4つの基本コンセプトに基づいて制作しています。

学習目標（平成18年6月13日協議会決定）として次の2点を設定しています。

1. ロシア語の「コミュニケーション活動を重視し、日常的な会話のバリエーションを増やす」こと。
2. ロシア語会話を重点内容に位置づけ、必要に応じて文法知識の理解を図ること。

また、教科書作成の基本コンセプト（平成18年8月29日作業部会採択）として次の4点を設定しています。

1. ロシア語検定のエレメンタリー・レベル（ロシア文部省実施）を基準とした教科書
2. 4つの言語領域（聞く、読む、話す、書く）を養成する教科書
3. 教師のキャリアに依存しない教科書（教科書の品質保証）
4. オリジナルストーリーを打ち出した教科書

その上、教科書の内容と構成として次の4点を設定しています。

1. 各課とも「新出単語、聞く、読む、話す、書く」の構成とする。
2. 1冊につき30課の構成とする。
3. 使用語いは、1冊につき約300語を目途とする。
4. 練習問題編を別冊で作成し、応用訓練の一助とする。

^{*1)}北海道ロシア語教育推進連絡協議会

^{*2)}北海道ロシア語教育推進連絡協議会調査研究部会

『テレモーク』は、新しいタイプの統合型教材といえます。そのため、初期段階の授業では教師にとっても、また生徒にとってもいくつか慣れない条件があるかもしれません。外国語としてのロシア語授業がいわば複合的な学習プログラムによって成立していることが、最大の特徴です。

具体的には、学習者の語いと文法の知識を基にして4つの言語能力（聞く、読む、話す、書く）を獲得するように構成されています。また文法事項を順序だてずに記載する編集方法は、これまであまり前例が見当たらないため、重層的な教材を効果的に指導するには少しばかり工夫が求められるかもしれません。

この教科書では生徒自身の積極的な授業参加を前提にしています。たとえば、授業では生徒の応答を得た後に、次の指導が展開される場面が随所にありますし、授業と家庭学習が練習問題編によって直結していることも、その一例です。

本書が勧める学習法をマスターした場合、口頭や筆記にかかわらず、ロシア人とのコミュニケーションに役立ち、もともと基本的な表現を使いこなせるだけではなく、ロシア語に対するモチベーションを高めることができるものと確信しています。

また、本編と関連する文法事項やロシアの詩歌などを巻末資料にまとめました。これらは授業で使う他に、家庭学習で参照したり、コンサートやコンクールなどのロシア語イベントで活用することも可能です。

授業運営上の問題が起こったり、教科書内容について不明な点などがありましたら、発行元にご連絡、ご相談ください。

筆 者

『テレモーク』の考え方について

この教材は、教科書本編の他、巻末資料、朗読CD、練習問題編、そして指導書から構成されています。

教科書本編には30課の学習テキスト、10課毎に合計3つの「まとめ 力だめし」があります。各課は基本的に、次の5部構成になっています。

第1部「新しい単語」は、新しい単語(10語)を示し、必要に応じて、人名や地名などの紹介、ロシア語の表現モデル、名詞や動詞などの語尾変化表を掲載しています。

第2部「聞いて繰り返そう」は、聞き取り用のロシア語や表現句を列挙しています。生徒にとってはこれ以降の支えになる大切な表現なので、敢えてカナルピを振ってあります。ここではまた、聞き取ったテキストの確認問題を併設して、習得の促進と徹底化を図っています。

第3部「読んでみよう」は、聞き取ったテキストをロシア語で展開しています。生徒はこの文章を読みこなせなくてはなりません。そして文章の意味を理解することも重要です。

第4部「言ってみよう」は、これまでに聞き、読んだ基本的なロシア語表現が盛り込まれており、暗記するのがもっともよいと思われます。これらの表現を使った設問にしています。

第5部「書いてみよう」は、第4部の筆記試験と見なすことができます。

巻末資料には次の資料が含まれています。

1. ロシア文字による日本語の表記
2. 教室でよく使われるロシア語表現
3. 数詞一覧

4. ロシア愛唱歌
5. ロシア名詩選
6. ロシア民謡『小さな御殿』（テレモーク）
7. ロシア人の名前（男性編・女性編）
8. 語形変化一覧表
9. 使用語いリスト

親委員会で確認されているように、本書は、伝統的な教科書や参考書が採る文法重視の原則に依拠せず、もっぱらコミュニケーション力の養成に重点をおいています。

しかし、実用会話や話題中心といえども、やはり文法体系を念頭におき、時には文法知識を説明しなければならないことも、十分に承知しています。その意味では文法知識が確かな語学力を支えるとの認識を持っています。巻末資料の数詞一覧や語形変化一覧表を適宜、活用ください。

練習問題編『私のロシア語ノート』は、基本コンセプト上は家庭学習用の教材です。

復習に当てたり、応用問題に取り組み、学力アップを図ることができます。その他、教師の指示に従って授業時間中に利用することもできます。このノートは、本編に連動していて全30課から構成されています。課題内容は本編の学習テーマに呼応しており、第1課と第2課を除いて、各課とも3つの課題を設定しています。ほとんどの課題が筆記問題です。最初の2題が各課の基本問題であり、最後の課題が応用問題、いくつかは発展問題になっています。

指導書は、高等学校のロシア語教師やこの教材でロシア語を教育する人々を想定したものであり、本書の特徴を知り、教材内容を積極的に展開する方法や効果的に授業を運営するヒントを記したものです。各課の基本的な構成は「学習テーマ」「到達目標」「準備教材」「教材説明」「指導案例」「補足事項から成っています。

この教科書は北海道内の高等学校で使用することを念頭に置いているのですが、他の地域にある高等学校や、ロシア語を第2、第3外国語として指導している教育機関でも使用できる設計になっています。

また指導書を併用すれば、ロシア語独習者にも使用可能だと考えています。なお本編の学習には、教育条件にも左右されますが、おおよそ35時間の授業数が必要であると計算しています。

教科書の指導法例

教師一人一人に知識と経験に裏打ちされたロシア語教授法があることは、繰り返すまで

もありません。ここでは外国語としてのロシア語教授法の研究と成果の一例を示すという意味に留め、以下の考え方をご覧ください。

指導法を説くにあたり、まず授業の目的と課題、そして到達目標を確認しておかねばなりません。外国語教育がなにがしかの情報を提供する、せいぜいロシア語の基本的なイメージを作り上げる段階に留まっているケースが、たびたび起こります。

外国語をしっかりと習得しようとするならば、このような知識ばかりではなく、計画的で、多面的な語学トレーニングを積んで、しっかりしたロシア語運用能力を獲得することも必要です。そのため、ロシア語コミュニケーションを成立させる為の、もっとも基本的で簡素な習慣づけを徹底するように、教師の方をお願いしたいのです。それ故 本編では4部（聞く、読む、話す、書く）、つまり4回に亘って同一教材がくり返されているのです。

この訓練を積み重ねることにより、学習者にロシア語の動機付けが強く作用するかもしれません。成果を大いに期待しています。

教室での授業は、教科書の構成に沿って進めます。

1. 新出語いの提示では、発音や読み方の難しい単語を板書して、必要な説明をおこないます。

[例]

- 1) 母音の弱化 *водá* – [вада], *река́* – [рика]
- 2) 子音の無声化と有声化 *зуб* [зуп], *сделáть* [зд'елат']
- 3) 日本人が混同しやすい発音 Р–Л, Б–В; Ж–З; Ф–Х; ТЕ–ЧЕ, ТИ–ЧИ, ШИ–СИ
- 4) 訓練の必要な発音 Л: *илл*, *читáли*, *кораблѝ*

単語の意味、必要に応じて日本語との違いを説明します。

全員で単語を読みます。

単語の使用例を提示し、必要に応じて類似例を書き加えます。

2. 聞き取りのステップでは、朗読CDを2、3回繰り返します。最初の聞き取りでは「ロシア語のヒント」を聞くだけ、2回目と3回目では朗読の後に生徒が反復します。最初の2回は教科書を見てもよいが、3回目では本を伏せて、繰り返します。次に、確認問題に取りかかります。
3. 読み方のステップでは、まずテキストの朗読を課します。次に、生徒を読み手と翻訳者の役割に分けて、朗読と翻訳を繰り返します。朗読と翻訳の評価は教師がおこないます。
4. 話し方のステップがもっとも難しく、学習者にもっとも大きな緊張感を強いる段階です。生徒は、第1～3課を除いて、その課の重要語句や表現を日本語からロシア語に訳

して、それを暗記します。さらに、状況に応じて使い分けられるようにトレーニングを積みみます。

教科書にはさまざまなタイプの課題が網羅されています。たとえば、イラストを見て語る、会話状況に応じて最適な話し方を選ぶ、ペアを組んだ対話練習などを設定しています。ペア練習では、一方が先生役で他方が生徒役になるタイプや、対等な2人が交互に質疑応答するタイプもあります。全員が一斉に対話練習に取りかかることが大きなメリットです。

5. 最終ステップが、書き方の練習です。通常は授業時間内でおこないますが、習熟度が高くない場合や、この段階まで授業が到達しなかった時には家庭学習に回すことも可能です。

第1課 アルファベット

学習テーマ ロシア語のアルファベットとよく使う会話表現を知る

到達目標

1. アルファベット一覧を提示し、個別音の読み方をまねて、反復する。
2. 出会いと別れのあいさつ表現を学ぶ。

準備教材

1. 模造紙に書いたロシア語アルファベット一覧表。
2. 出会いと別れの場面を描いた大型イラスト。

教材説明

第1課をロシア語のアルファベットに関する紹介から始める。日本語の五十音との比較でロシア語には33文字があること、文字数が少ない分、努力を惜しまなければ数課でマスターできることを強調する。また、このアルファベットは、正しくはスラブ文字と呼ばれ、マケドニア人のキリールとメフォージイ兄弟によって今から1000年ほど前に考案され、毎年5月24日がいわば文字誕生日に当たることを紹介しても良い。学校や大学では、この日にコンサートや文字パレードが催されている。

アルファベットの紹介にあたっては以下の点に特に注意を払いたい。

1. 英語文字との混同を避ける。[b], [h], [p], [c]
2. ロシア語の [y] は、日本語のそれより強く発音する。
3. 子音 [ж], [ш] を軟化させない。
4. 母音 [ы], [и] の差異を示す。
5. 子音 [ь], [ъ] は音価をもたず、子音の硬化と軟化を示す記号にすぎない。

指導事例

1. ロシア語アルファベットのお話
2. 文字と発音を模範提示する。生徒は教師と一緒に読む。先程の特徴を説明する。ロシア文字33字を全て板書して、声に出して読む。生徒にはノートを取らせて読ませると、より効果が上がるかもしれない。
3. 課題1では朗読CDを聞き、それから繰り返し読み方練習する。
4. 課題2では教師が指示する音節に区切って、読み方練習をする。この時、以下の点に注意する。
 - 1) [y] は強く発音する
 - 2) [си] が [шы] とならないように発音する。

- 3) [ти] が [чи] とならないように発音する。
- 4) 「ら行」[pa] が [ла] にならないように発音する。
5. 課題3ではフレーズを板書して、発音上の特徴を解説する。ルビを振る場合、ローマ字が望ましいが、カナ文字やロシア文字でも構わない。読み方練習の後、指名して応答練習をおこなう。

[例] *Здравствуйте* [zdrastvuiti]

次に、この単語を使った会話例を板書する。

[例] Преподаватель: Здравствуй^те!
Ученик: Здравствуй^те:
Преподаватель: Как дела́?
Ученик: Спаси́бо! Хорошо́.

最初は教師と生徒の間でモデルを示し、次に生徒同士でペア練習をおこなうと効果的かもしれない。生徒数が奇数なら、教師も練習に加わる。

6. 書き方練習は教室内でおこなう方が、学習効果が高い。誰がどの文字を気に入っているかを知るのに好奇心を刺激するためである。

補足事項

1. ロシア文字を書いたさいころを用意する。生徒はその文字を使った人名や都市名を答える。
2. ロシア語表記の日本地図を用意する。生徒は、先生が指示した地名を探す。

第2課 アクセントをつけよう

学習テーマ ロシア語のアクセントを聞き分ける。紹介の表現を覚える

到達目標

1. アクセントのイメージを定着させ、第1、2、3音節にアクセントのある単語の発音練習をする。
2. 常用語いを覚え、紹介の表現を習得する。

準備教材

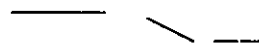
1. 模造紙に書いたロシア語アルファベット一覧表（第一課と同一教材）。
2. 出会いと別れの場面を描いた大型イラスト。

教材説明

第2課をアルファベットの復習から始め、生徒と一緒に読みを繰り返す。ロシア語のアクセントの特徴を話す。日本語のアクセントはトーン（高低）で区別するので音楽的と呼ばれるが、ロシア語では単語の中で特定の音節が強く調音されることによって実現される。ロシア語アクセントのもう一つの特徴は、たとえば最終音節にアクセントが固定しているフランス語と異なり、場所が変動することである。これは同一単語内でも起こり得る。日本人学習者が陥りやすい、これら2つの注意点を忘れないようにする。

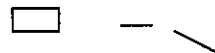
この課ではイントネーションにも注意を払いたい。「私の名前は～です」という文ではいわゆる第1型が使われ、文末でイントネーションが下がっている。

Меня зовут Дима.



他方、「あなたの名前はなんですか」という文では第2型が使われる。疑問詞の音節が強く発音されるが、文末は第1型と同じく降下する。

Как вас зовут?



指導事例

1. 第1課の復習。アルファベットの復唱。
2. ロシア語アクセントの特徴について説明する。
3. 課題1で生徒は朗読CDを聞き、その後教科書を見ながら、表現句を繰り返し読む。
4. 課題2では生徒が順番に、または教師の指示に従って単語を読む。その際、正しいアクセントを付けるように格別の注意を払う。
5. 課題3ではまずフレーズを板書する。できれば、ルビを振った方がよい。以下の2項目について発音上の注意をおこなう。

- 1) 「呼^зво^ву^т」では無アクセントの o が a のように読まれる。
- 2) 同様に、「私を меня」では無アクセントの e が и のように読まれる。
6. 課題 4 は巻末資料を参照して解く。教師が生徒を指名して解答させる。

補足事項

1. イラスト付きのフリップを用意する。単語例は「公園」「動物園」「レストラン」「トイレ」「港」などが考えられる。
2. なりきりカードを用意する。カードには名前やあいさつに必要なフレーズが書いてある。
3. 小話の紹介。モスクワのレストランで食事を終えた外国人が、いざ、支払いの時にこう言った。**Я плачу** (私は泣いている)。」従業員は驚いた。なぜ泣くのか？料理がそんなにおいしかったのか？実は、そうではなかった。客はアクセントを間違えたのだ。正しくは「**Я плачу́** (私は支払いをします)。」

第3課 そことあそこ

学習テーマ 人物や品物の所在を表現する

到達目標

1. 場所を表す副詞 тут, там を使い分ける。
2. 人物や品物の名称を覚え、接続詞 и の用法を理解する。

準備教材

1. イラストカード。所在を表現するためのイラストは、たとえば「みんなのロシア語 Русский язык для всех」などに満載されている。
2. 出会いと別れの場面カード。

教材説明

本課の冒頭が最後で、生徒にロシア名を付けることを勧めたい。ロシア人名一覧表は巻末資料にあり、たとえば自分で名前を選ぶように宿題を課してもよい。何らかの方法で決定した名前でも、もう一度自己紹介をやり直してみる。

第3課から冒頭に新出単語が増設される。テキストを読んだり話したりする時には、第1型のイントネーションでおこなうことを喚起しておく。また、自分を指し示す時、ロシア人は自分の胸を指し示すジェスチャーを伴う。

指導事例

1. 第2課の復習。生徒はロシア名で自己紹介をする。
2. 難解な単語、語法説明を必要とする単語を選んで、板書する。このような単語例には「家 дом」「そして и」「鉛筆 карандаш」「ペン ручка」「そこ тут」「あそこ там」「私 я」などが挙げられる。これらの単語はコーラスで読み、日本語訳を与える。
3. 課題1ではまず朗読CDを聞く。そして繰り返し読む。
4. 課題2では生徒が順番に、または指名を受けてテキストを読み、日本語に訳す。教師はアクセントとイントネーションに注目しながら、読みと訳を正していく。
5. 課題3は、2ステップで進行させる。生徒はまず、日本語で言われた文章をロシア語に翻訳する。その際にアクセントとイントネーションに注意すること。第2ステップではイラストを見て、示されたものがどこにあるのかを答える。
6. 課題4ではそれをロシア語で書く。

補足事項

1. イラストカード。施設や人物が描かれ、遠近がはっきりしているものが望ましい。たとえば「家と公園 дом и парк」「キオスクと学校 киоск и школа」「猫と犬 кошка и собака」

собака」など。

2. 遊戯的な課題。教師がロシア語で施設や品物を言う。生徒は、遠近を判断して「ここ тут」「あそこ там」と答える。教室にいる生徒の名前を使うことも可能である。

[例] Учитель: Школа.

Ученики: Тут.

Учитель: Папа и мама.

Ученики: Там.

第4課 彼、彼女、彼(彼女)ら

学習テーマ 名詞の性と数を理解する

到達目標

1. 名詞の文法性を理解し、人称代名詞と関連づける。
2. 読み方の規則 *аканье* を理解する。
3. 「これは～です *Это ...* .」の文を理解する。

準備教材

1. 文房具を描いたイラスト。ハヴローニナ著『練習問題で学ぶロシア語 *Русский язык в упражнениях*』第1課に満載されている。

教材説明

1. 無アクセントの *о* が *а* のように発音されることに注意する。ボリス *Борис* とポリナ *Полина* は本書の主人公であるため、間違えないように気をつける。
2. 人称代名詞を説明する時、「私」を指し示すジェスチャーにも気をつけたい。

指導事例

1. 第3課の復習。特に「ここに」「あそこに」を答える質問をおこなう。
2. 新出語いの説明をおこなう。まず、難解な単語をルビを振って板書する。このような単語例には「黒板 *доска*」「窓 *окно*」「彼 *он*」「彼女 *она*」「彼ら(彼女ら) *они*」「メガネ *очки*」などがある。これらの単語はコーラスで読み、日本語訳を与える。
3. 課題1では朗読CDを聞く。次に、教科書を見ながら繰り返し読む。
4. 課題2では生徒が順番に、または指名を受けてテキストを読み、日本語に訳す。教師は無アクセントの *о* の発音に特に注意しながら、読みと訳を正していく。
5. 課題3は、2ステップで授業を進める。まず、生徒は日本語の文をロシア語に訳す。答える時は、正しいアクセントで、しかも弱化規則を守りながらロシア語を発音する。次に、イラストを見て、「これは～です *Это*」タイプの文を答える。
6. 課題4では、口頭で答えたロシア語を書く練習に充てる。

補足事項

1. 人物や品物が描かれたイラスト。これらは生徒が知っているものか、簡単に推測できるものに限られる。たとえば「ロシア」「公園」など。生徒は「これは～です」の文を答える。

第5課 だれが？なにが？どこで？

学習テーマ 疑問代名詞を理解する。

到達目標

1. 疑問代名詞 кто? что? где? を含む文を理解し、使い方を習得する。
2. 無アクセントの е が и のように読まれることを理解する。

準備教材

1. 国籍や民族の異なる人々のイラスト。多種揃える。
2. 課題3で使用するイラストカード。

教材説明

1. 疑問代名詞を含む文を板書して、例示する。たとえば以下のような文が想定される。

[例] – Что это? – Это книга.
– Где книга? – Книга тут.
– Кто это? – Это Борис.
– Где книга? – Книга тут.
– Где Борис? – Борис там.

2. アクセントのない е, я が и のように発音されることを説明する。「日本япония」「日本人японец, японка」のような身近な単語で顕著に現れる現象なので、この規則の重要性を強調しておく。

指導事例

1. 第4課の復習。
2. 新出語いの説明をおこなう。難解な単語や説明の必要な単語にルビを振って板書する。このような単語例には「誰кто」「何что」「どこгде」「ロシアРоссия」「ロシア人русский, русская」「日本人японец, японка」などがある。これらの単語をコーラスで読み、日本語訳を与える。
3. 課題1のやり方が、この課から多少複雑になる。朗読CDを聞き、教科書の質疑応答を読んだ後、生徒は理解度を確かめる質問に答える。
4. 課題2では先程の質疑応答をロシア語で読む。次に、日本語に訳す。教師は無アクセントの я の発音に特に注意しながら、読みと訳を正していく。
5. 課題3は、2ステップで授業を進める。まず、生徒は日本語の文をロシア語に訳す。答える時は、正しいアクセントで、弱化規則を守りながらロシア語を発音する。次に、予め用意したイラストカードを使ったペア練習に移る。生徒がカードの内容について

質問し、相手がそれに答える。役割を交代しながら、練習を進める。生徒数が奇数なら、教師もペア練習に加わる。

6. 課題4では、口頭で答えたロシア語を書く練習に充てる。

補足事項

1. 有名人の写真。たとえば、歌手や作家、政治家など。教師が写真を見せて、「これは誰なのか Кто это?」と質問する。生徒が答える。
2. 多少遊戯的な課題。教師の少年時代の写真を見せて、誰なのか、と質問する。

第6課 調子はどうですか？

学習テーマ 出会いでの会話マナーを習得する。

到達目標

1. 出会いの場面で不可欠な会話マナーとロシア語表現を理解し、習得する。

準備教材

1. カレトニコヴァ著『はい、私はロシア語が話せます Да, я говорю по-ру́сски』。特に50頁の資料を援用したい。

教材説明

1. 教科書や参照資料のイラスト、カードなどを使って、「これは何ですか Что это?」「これは誰ですか Кто это?」のような質問を出す。

[例] - Что это? - Это кни́га.
 - Где кни́га? - Кни́га тут.
 - Кто это? - Это Бори́с.
 - Где Бори́с? - Бори́с там.

ロシア人の会話マナーについて話すことが望ましい。たとえば、相手との距離や社会的地位、年齢に応じてあいさつが異なる。「やあ」「おはよう」というあいさつことばに使い分けがある。

他に、相手を指す代名詞「あなた вы」「お前 ты」にも使い分けがあることを説明する。一般に「お前 ты」は家族、友人、恋人、年少者、子どもに対して用いる。「あなた вы」の方は、相手が一人の場合には年長者や社会的に高い地位にある者に対して、また相手が複数の時には「君たち」「あなた方」の意味で使われる。

2. 軟音記号の前に置かれる子音 ь は「い」の音を加えて「軟らかく」発音されることを説明する。ここには例語を提示していないので、板書をして、生徒と一緒に読むことを勧めたい。たとえば、月名 январь, февраль, апрель や名詞 день, конькиなどが妥当と思われる。

指導事例

1. 第5課の復習。イラストカードを生徒に見せ、疑問代名詞を含む質問をおこなう。
2. 新出語いの説明をおこなう。この課の新出単語はどれも発音が難しい。また、具体的な語法説明も必要である。従って全ての単語を板書し、ルビを振る。次に、生徒と一緒に発音する。

[例] *до свидáния* [дасвидания]
здрáвствуй [здраствуй]
здрáвствуйте [здраствуйти]
как дела́? [какдила]
о́чень [очин']
плóхо [плоха]
пока́ [пака]
спаси́бо [спасибá]
хорошо́ [харашо]

特に、以下のロシア語について発音上の注意を怠ってはならない。

- 1) 母音弱化 1 *до свидáния, плохó, пока́, хорошо́*
 - 2) 母音弱化 2 *как дела́, о́чень*
 - 3) 黙字 *здрáвствуй, здра́вствуйте*
3. ロシア人の会話マナーについて説明する。内容は上記（教材説明1）の通り。
 4. 課題1では朗読CDを聞き、フレーズを繰り返す。次に、聞き取った内容に関する質問に答える。
 5. 課題2では生徒が順番に、または指名を受けてテキストを読み、日本語に訳す。教師は読みと訳を正していく。
 6. 課題3では2ステップで授業を進める。まず、生徒は日本語の文をロシア語に訳す。次に、ペア練習。対話で使用したフレーズを使ってあいさつを交わしてみる。
 7. 課題4では口頭で翻訳したロシア語を書いてみる。

補足事項

1. 3枚の人物イラストを用意する。1枚目は生徒たち、2枚目が年配者同士、3枚目が先生と生徒。イラストを見せて、どんなあいさつをするのか質問する。イラストが見つからない場合は、単語だけのカードや板書でも構わない。

[例]

- 1) 生徒同士。「Привéт» «Пока́»
- 2) 年配者同士。「Здрáвствуйте» «До свидáния»
- 3) 先生と生徒。先生は「Здрáвствуй」と言えるが、生徒は「Здрáвствуйте」を使う。

第7課 あなたのお名前は

学習テーマ 紹介の会話マナーを理解する

到達目標

1. 初対面の場面で不可欠な会話マナーとロシア語表現を理解し、習得する。

準備教材

1. 各種のロシア語初級教科書に掲載されている資料。
2. ロシア語図解辞典。初対面の場面とフレーズを見せ合いながら、対話練習が可能。

教材説明

1. この課でも引き続き会話マナーを学習する。授業にあたっては「**кѣмы**」「**а́на/вы**」の使い方に気を配ること、ロシア人は公的な場所では名前と父称（**и́мя и о́тчество**）で呼びかけることを喚起しておきたい。また、ロシアの学校で先生に対しては「あなた」で、名前を呼ぶときは相手の名前と父称を使うことになっている。この課で導入する「**～さん госпо́дин, госпо́жа**」は、ペレストロイカ以降、比較的最近になって使われ始めた呼びかけである。
3. 人称代名詞の対格 **меня́, его́, её, вас, их** は、説明が少し難しい事項と思われる。深みにはまらないためには、いわば「できあいの表現」に留めておいた方がよい。

指導事例

1. 第6課の復習。初対面をテーマに対話する。拠り所は教科書でも、朗読CDでも構わないが、必ず教師の正誤確認を受けること。
2. 新出語いの説明をおこなう。この課の単語も発音が難しく、発音指導が必要である。従って全ての単語を板書し、ルビを振る。その後、生徒と一緒に発音する。
3. ロシア人の会話マナーについてコメントする。内容は上記（教材説明1）の通り。
4. 課題1では朗読CDを聞き、フレーズを繰り返す。次に、覚えているロシア人の名前を答える。
5. 課題2では生徒が順番に、または指名を受けてテキストを読み、日本語に訳す。教師は読みと訳を正していく。
6. 課題3では2ステップで授業を進める。まず、生徒は日本語の文をロシア語に訳す。次に、ペア練習。対話で使用した表現を使って相手の名前を聞いてみる。
7. 課題4では課題3のロシア語を、教師の指導を受けながら書いてみる。

補足事項

1. 第6課で用意した人物イラスト3枚を利用してペア練習。初対面の場面を再現する。

第8課 イエスとノー

学習テーマ 肯定と否定の表現を理解する

到達目標

1. 助詞「はい да」「いいえ нет」を使った肯定と否定の表現を理解し、習得する。
2. 第3型イントネーションを理解し、習得する。

準備教材

1. ロシア語で「はい」「いいえ」と書いたカード。教師との会話、ペア練習でこれを相手に示して、周囲に誇示する。
2. 日本人、ロシア人、アメリカ人のイラスト、または写真。

教材説明

1. この課では第3型イントネーションを学ぶ。これは疑問詞を使わない疑問文の一種であり、疑問の中心部が特に高いトーンで発音されるという特徴がある。一般に、日本人はこのトーンの上がり方が小さいので、疑問文として認識してもらえないことが多い。ロシア語教師の本領を発揮して、発音指導をおこないたい。



Борис китаец?

生徒の習得が速く、余裕が生まれたら、教師の裁量で単語を追加してもよい。

指導事例

1. 第7課の復習。生徒はペアになって初対面の場面を再現する。教科書、朗読CDなどに頼ってもよい。
2. 新出語いの説明をおこなう。
 - 1) o, e の母音弱化に注意を払う。
амери́канец [амириканиц]
кита́ец [китаиц]
преподава́тель [припадаватил`]
 - 2) 子音の軟化例を挙げる。шко́льник / шко́льница
3. 第3型イントネーションの図解説明。内容は上記（教材説明1）の通り。
4. 課題1では朗読CDを聞き、フレーズを繰り返す。次に、聞き取った内容に関する質問に答えて、理解度確かめる。
5. 課題2では生徒がペアになってテキストを読み、日本語に訳す。教師は読みと訳を確認する。

6. 課題3では2ステップで授業を進める。まず、生徒はペアを組んで、与えられた文をロシア語に訳す。次に、ペア練習。人物カードを使って相手に質問する。
7. 課題4では課題3の会話をノートに書いてみる。

補足事項

1. ゲーム「私は何人でしょうか Угадай, кто я по национальности.」のやり方。
これは、カードに書かれた民族名を当てるゲームである。まず、教師は民族名を板書する。本編で学習したもの以外でも構わない。但し、男性と女性、両方を板書し、必ず日本語訳を添えること。次に、板書した民族名のひとつを記したカードを生徒全員に配布する。他人に自分のカードを見られてはいけない。カードを持った生徒が黒板の前に立ち、クラスメイトが1回質問する。的外れな質問なら「いいえ、私は～ではありません」と答え、正解なら「はい、私は～です」と答え、カードを返却する。順番に黒板の前に立ち、チャンピオンが出るまで続ける。なお、チャンピオンには教育上有益なほうびが与えられると、一層効果的である。ルールは変更可能である。

第9課 ちょっと伺いますが

学習テーマ 話しかける時の会話マナーを理解する

到達目標

1. 話しかける時のことばや感謝、謝罪の表現を習得する。
2. ものの所在を確かめる表現を習得する。

準備教材

1. 教科書『みんなのロシア語 *Русский язык для всех*』のイラスト資料。
2. 各種施設名を記した（イラスト）カード。たとえば「レストラン *ресторан*」「郵便局 *почта*」「薬局 *аптека*」「学校 *школа*」「軽食堂 *кафе*」「銀行 *банк*」など。課題1で使用する。

教材説明

1. 紋切り型表現「ちょっと伺いますが *Скажите, пожалуйста, ...*」は、見知らぬ人から何か情報を得ようとする時にもっと多用されるロシア語である。教師もまた、生徒や学生に話しかける時に使うことが多い。このフレーズの後にはさまざまな疑問詞が続けられる。たとえば、「どこ *где*」「どうや *как*」「どんな *какой*」「どこへ *куда*」「なぜ *почему*」など。
2. 2種類の「すみません *простите, извините*」の差異を説明する。大抵の場合は両者に意味の違いはほとんどない。しかし話者が相手に対して済まないと思う気持ちが強い場合は、「ごめんなさい *извините*」の方が罪悪感を強調している。

指導事例

1. 第8課の復習。教師はイラストを見せながら、次のような質問をだす。

[例] Борис америкáнец? Он китаéец? Он япо́нец? Кто он? По́лина америкáнка?
Она́ япо́нка? Она́ кита́йка? Она́ америкáнка? Она́ ру́сская? Вы ру́сский?
Вы ру́сская?

2. 新出単語に取りかかる前に、恒硬子音の説明をおこなう。いわゆるシュー音のЖ, ШとЦの後に母音Иを綴っても、Ыを書くのと同じ発音になる。例語と意味を板書して、読み方を添える。

[例] ЖИ [жы] жить, живóт
ШИ [шы] маши́на
ЦИ [цы] цирк

3. 新出語いの説明をおこなう。併せて、読み方の注意もおこなう。

- 1) 母音の弱化 скажите, извините
- 2) 恒硬子音 скажите
- 3) 文字の読み替え Не́ за что.

[例] *Извините* [извинити]

Метро [митро]

Не́ за что [незашта]

Пожалуйста [пажалуйста]

Простите [пратс`ит`и]

Скажите [скажыт`и]

4. 教材説明で挙げた2つの事項を紹介する。

5. 課題1では朗読CDを聞き、フレーズを繰り返す。次に、教師が示すイラストカードを見て、発言内容を答える。

6. 課題2では生徒がペアになってテキストを読み、日本語に訳す。教師は読みと訳を確認する。

7. 課題3では2ステップで授業を進める。まず、生徒はペアを組んで、与えられた文をロシア語に訳す。次に、設定条件にふさわしいロシア語を答える。

8. 課題4では課題3の会話をノートに書く。

第10課 いいですか？ だめです！

学習テーマ 無人称述語 *можно, нельзя* を使った表現を理解する

到達目標

1. 無人称述語 *можно* を使った疑問文に対して、肯定と否定の応答文を習得する。
2. 無人称述語の後に動詞不定形が続くことを理解する。

準備教材

1. 『ロシア語会話1』（札幌大学編）のイラスト
2. ロシア語カード。たとえば、「はい、できます*Да, можно.*」「はい、どうぞ*Да, пожалуйста.*」「いいえ、だめです*Нет, нельзя.*」「すみません、だめです*Извините, нельзя.*」というロシア語。

教材説明

1. 学習テーマに係わる無人称述語の使い方を説明する。以下の応答表現を比較した時に、断定度に差異があることを喚起する。「はい、できます」「いいえ、だめです」には断定調が強く感じられ、「はい、どうぞ」「すみません、だめです」ではそれ程でもない。

指導案例

1. 第9課の復習。どのような言い回しを覚えているかを確認する。
2. 新出語いの説明をおこなう。
 - 1) 反意語のペアを板書する。日本語訳を添える。みんなで読み上げる。

[例] *войти* – *выйти* 入る⇔出る
открыть – *закрывать* 開ける⇔閉じる
можно – *нельзя* できる⇔できない
 - 2) 読み方の注意をおこなう。

[例] aのように読む *войти, конечно, можно, окно, открыть*
иのように読む *нельзя*
ьを伴う読み方 *дверь, есть, закрыть, курить, нельзя, открыть*
чиにならないように注意する *войти, выйти*
шに読み替える *конечно*
3. 動詞の不定形を紹介する。一連の動詞不定形を板書して、語尾に共通性があることを理解する。この語形は、辞書の見出し形であることを言い添える。
4. 課題1では朗読CDを聞き、フレーズを繰り返す。次に、聞き取った内容に関する質問に答えて、理解度を確かめる。

5. 課題2では生徒がペアになってテキストを読み、日本語に訳す。教師は読みと訳を確認する。
6. 課題3では2ステップで課題を進める。まず、生徒はペアを組んで、与えられた文をロシア語に訳す。次に、イラストを見て何と言っているのか答える。
7. 課題4では課題3の会話をノートに書いてみる。

第11課 私の持ち物はどこだろう

学習テーマ 所有代名詞を使った表現を理解する

到達目標

1. 「私の～はどこだろう」のような疑問文を理解し、状況に応じて使うことができる。
[例] Где мой..? Где моя..? Где моё..? Где мой..?
2. 物の所在を聞かれて、「ほら、ここにそれがある」と応答することができる。
[例] Вот он. Вот она. Вот оно. Вот они.

準備教材

1. 学用品のイラスト各種。ロシア語と日本語訳を付ける。たとえば「ペン ручка」「鉛筆 карандаш」「本 книга」など。

教材説明

1. 「ちょっと待って(ください)Подожди(те).」「時間がないНекогда.」「知りません(わからない)Не знаю.」という会話モデルは日常で頻繁に使用するので、必ず説明する。ていねいな表現をする時には「どうか пожалуйста」「すみませんがпростите, извините」が添えられることを指導する。
[例] Подождите, пожалуйста.
Простите, некогда.
Извините, не знаю.
2. 第11課から「聞いて繰り返そう」の部分に「ロシア語のヒント」が増設される。テキストで使われる重要表現を予め学習し、聞き取りや翻訳に役立てるねらいがある。従って、「聞いて繰り返そう」は3部構成になる。1部はロシア語のヒント、2部がテキストの朗読、3部が内容把握の確認問題にあたる。
3. この課ではもうひとつのしかけを用意している。日常会話のやりとりを想定して、短いスキットを教材に織り込んでいる。工夫次第では、ロシア語劇のように楽しむことができる。

指導事例

1. 第10課の復習。イラストカードを用意して、「これは何ですかЧто это?」「それはどこにありますか Где это?」と質問する。教室内にあれば、「ここです тут」と答えるが、教室の外なら、「あそこです там」と答えさせる。
[例] Преподаватель: (ペンのイラスト示して) Что это?
Ученик: Это ручка.

Преподаватель: Где ручка?

Ученик: Ручка тут.

2. 新出語いの説明をおこなう。

- 1) 無アクセント母音の **о** の発音に注意する。пожд^ите, некогда, пожа^луйста
- 2) 無アクセント母音の **е** の発音に注意する。п^енал, теле^фон
- 3) 子音 **щ** の発音に注意する。в^ещи

3. 所有代名詞「私の мой」の4語形を板書する。名詞との結合例を書いて、男性、女性、中性、複数形の区別を図示する。

(Мой) телеф ^о н	(моя́) сум ^к а	(моё) пись ^м о	(мой) руч ^к и
ОН	ОНА́	ОНО́	ОНИ́

男性名詞は「電話 телеф^он」のように子音で終わり、女性は「バッグ сум^ка」のように **-а, -я** で、中性は「手紙 пись^мо」のように **-о, -е** で終わることが多い。ロシア語には、英語と同様に、単数形と複数形の区別があり、「ペンке^р - пен^ал - пен^алы」 「пен^ка - руч^ка - руч^ки」のようにペアを組む。男性と女性名詞では通常、**-ы, -и** が複数形の語尾にあたる。また「時計 час^ы」のように複数形でしか使われない名詞があるので、注意を要する。

所有代名詞の語尾は、名詞の性と数に応じて変化する。男性に対しては「私の мой」が使われ、女性では「私の моя́」が、中性では「私の моё」、そして複数形では「私の мой」が呼応する。これら4語形を日本語に訳すとすべて「私の」であり、両言語の違いがはっきりとわかる好例である。

4. 課題1では朗読CDを聞いて、まず生徒自身がロシア語のヒントを繰り返してから、テキストの朗読を聞く。次に、内容理解の確認をおこなう。すなわち、ポリーナとママが話した内容について正しい選択肢を答える。生徒の習熟度と教師の判断によっては教科書に頼らなくてもよい。
5. 課題2では生徒に役割を振り当てて、テキストの読み方を練習する。次に、日本語に翻訳する。教師は読みと訳を確認する。
6. 課題3では日本語をロシア語に翻訳する。次に、ペア練習に移る。会話モデルに従って、問題を解いていく。終えたところで、役割を交代する。
7. 課題4では訳したテキストを文字で書いてみる。

補足事項

1. 学用品を描いたイラストカードを使った質問ゲーム。2種のやり方が考えられる。
 - 1) イラストの文具がどこにあるのか、「私のペンはどこですか Где моя ручка?」のように「私の мой, моя, моё, мои」を使って質問する。教室にあれば、生徒は指さして「ほら、ここです Вот он. /Вот она. /Вот оно. /Вот они。」と答える。無け

れば、すみません、わかりません Простите, не знаю.」と答える。

2) 生徒同士がペアになって、このゲームをおこなう。

2. 「宝さがし」ゲーム。生徒がペアを組む。一人目の生徒が室外に出る。その間にペアの生徒が自分の持ち物をどこかに隠す。戻ってきた生徒に「私の鉛筆がどこにあるのか、答えてみて Скажи, пожалуйста, где мой карандаш?」と聞く。鉛筆を探して、見つけたら、「ほら、ここだよ Вот он.」と告げる。

このゲームは順番に進めることも、一斉におこなうこともできる。ルールと進め方は、教師が主導して決める。

第12課 これは私の家族です

学習テーマ 家族写真をみせて家族のことを話題にする

到達目標

1. 「これが私の～ですЭто мой (моя/моё/мой) ..., Вот мой (моя/моё/мой) ...」 という文を習得する。
2. 親族名称を理解し、状況に応じた質疑応答ができる。

準備教材

1. 家族の写真か、イラスト。

教材説明

1. 「ああ、時間がないОй! Нёкогда!」は日常ひんぱんに使われるフレーズなので、ぜひ暗記しておきたい。
2. 家族の写真やイラストをいかに効果的に活用するかが、この課の成否を決定づける。

指導事例

1. 第11課の復習。補足事項で紹介したゲームを繰り返す。
2. 新出語いの説明をおこなう。
 - 1) 無アクセント母音 o, e の発音に注意する。звонóк, сёмья́, сестра́, соба́ка
 - 2) 子音 ш の発音が с にならないように指導する。де́душка, ба́бушка, ко́шка
 - 3) 軟子音の発音に注意する。дядя́, сёмья́, тётя́

次に、この課で使う親族名称と男女のペアを板書する。

де́душка – бабушка

дядя́ – тётя́

бра́т – сестра́

意味を説明し、単語をコーラスで読む。「これはおばあさんですか Это бабушка?」や「これは誰ですか Кто это?」と、適宜質問をだすことも可能である。

3. 課題1では朗読CDを聞く。生徒自身がロシア語のヒントをくり返してから、テキストの朗読を聞く。次に、教科書に則した家族イラストを見せながら、内容の理解確認をおこなう。
4. 課題2では生徒が役割分担して、テキストを読む。日本語に訳す。この時、生徒は家族のイラストを見せながら、課題に答えてもよい。教師は読みと訳を確認する。
5. 課題3ではフレーズを日本語をロシア語に訳す。次に、ポリーナの兄弟か、姉妹になりきって、テキストを言い換える。

[例] Вот моя семья. Это Полина, дедушка и бабушка. Это я и собака Тобик. Это моя сестра и кошка Мурка.

6. 課題4では前の課題で訳したテキストを文字で書く。

7. 時間があれば、この課の重要表現を繰り返して、授業を終える。

補足事項

ロシア語ゲーム。教師は2人の生徒を教卓まで呼ぶ。たとえば、教科書『コロボーク Колобок』に掲載された家族写真を見せて、次のテキストを読み上げる。

[例] Это русская семья. Это дедушка. Его зовут Пётр Алексеевич. Это бабушка. Её зовут Анна Петровна. Это папа. Его зовут Иван Петрович. Это мама. Её зовут Ирина Семёновна. Это Полина. А это её брат. Его зовут Борис.

テキストに登場する人物名を板書してもよい。生徒は写真の人物を指さして、「これは誰ですか Кто это?」「どんな名前ですか Как его / её зовут?」と相手に質問する。最後まで答えきった方が勝ち、答えに詰まった生徒が負けとなる。やり方の細目は、変更可能である。

第13課 どうか、～をください

学習テーマ 授業で使われる紋切り型表現を習得する

到達目標

1. 命令表現を習得する。
2. 名詞や代名詞の対格形とその用法を理解する。

準備教材

1. 巻末資料の内『教室でよく使われるロシア語表現』を参照する。その他、英語教材を含め、あらゆるリソースが活用できる。

教材説明

1. この課で学ぶ分量はかなり多い。ロシア語を繰り返し聞かせる。この課で使われる表現を優先的に暗記させることが重要である。授業ではなるべくロシア語で生徒に指示して、教室で使われる表現の定着に努めたい。巻末資料を参照して、応用範囲の拡大を図る。

[例] *открóйте учебник, чита́йте текст; пиши́те* など。

指導事例

1. 新出語いの説明をおこなう。

- 1) 無アクセント母音 *о*。домáшнее задáние, мо́лодец, открóйте
- 2) 無アクセント母音 *е*。домáшнее задáние, мо́лодец, открóйте, пиши́те, чита́йте
- 3) 子音 *ш* が *с* にならないよう発音指導をする。домáшнее задáние, пиши́те
これらの単語は発音が難しいので、板書が望ましい。意味を書き、コーラスで読む。また、これらはいずれも常用語であり、以後も授業で活用するために、速やかに暗記させることを勧める。

2. 文法説明をおこなう。以下の項目を板書する。

1. 男性(*он*)

каранда́ш

уче́бник

пена́л

Да́йте каранда́ш

2. 女性(*она*)

кни́га

су́мка

ручка́

Да́йте кни́гу, су́мку

3. 中性(*оно*)

зада́ние

Да́йте дома́шнее зада́ние

まず、板書に注目させ、1～3番の差異が何なのか、を考えさせる。一通りの回答を聞き終えてから、教師は1番（男性名詞）と3番（中性名詞）では、「与える」などの動詞と結合する場合、通常、語尾に変化がないことを教える。他方、女性名詞の場

合は語尾が-a から-y に変化していることに注目させる。

3. 課題1では朗読CDを聞き、まず生徒にロシア語のヒントを繰り返し読ませる。次に、テキストを聞かせて、確認問題を解く。正しい内容の選択肢に印をつける。
4. 課題2では生徒が役割分担して、テキストを読む。日本語に訳す。順序を逆にして、最初にロシア語訳をおこない、次に対話練習をしてもよい。
5. 課題3では対話フレーズをロシア語に訳す。次に、ペア練習。一方が「ペン *ручка*」「鉛筆 *карандаш*」などの学用品を貸してくれるように頼む。習熟度が低いと判断したら、これらの単語を板書する。相手はこれに対して「どう *пожалуйста*」とか「ごめん、忘れちゃった *Извини, забыл.*」などと答える。この課題では応答文を少し複雑にしてもよい。たとえば、「ほら、どうぞ、受け取っ *На, возьми, пожалуйста.*」「ごめん、だめなんだ *Извини, нельзя.*」など。このヒントは板書して、生徒にノートを取らせる。
6. 課題4では前の課題で訳したテキストを文字で書く。

補足事項

なりきりゲーム。生徒にペアを組ませて、この課のフレーズを使い、先生役と生徒役の会話をさせる。

第14課 あなたは何をしていますか

学習テーマ 電話の会話で使われる表現を理解する

到達目標

1. 電話の会話で使われる単語と表現を習得し、誰が何をしているのかを聞く。
2. 動詞の現在形第1変化を理解する。

準備教材

1. さまざまな動作をする人々のイラストカード。たとえば、「休息中の人々」「読書中」「何かを書いている」「音楽を聴いている」人々など。
2. 可能なら、玩具の電話。ペア練習や対話などで生徒に使わせる。

教材説明

ロシア語動詞が現在時制で人称と数に応じて語尾変化することを教える。必要に応じて、巻末資料の『語形変化一覧表』を参照する。

指導事例

1. 第13課の復習。宿題の確認を兼ねておこなう。教師は以下のような問いかけを板書する。

[例] *Домашнее задание есть? – Да, есть*
Кто забыл домашнее задание?
Читайте, пожалуйста.
Дайте, пожалуйста, домашнее задание.

教師は、生徒がロシア語の意味を理解しているか、を聞く。理解していない場合は、まず意味を説明し、それからロシア語で問い直す。

2. 以下の新出語いを板書して、説明する。

- 1) 無アクセント母音 **о**。отдыхать, трудно
- 2) 無アクセント母音 **я**。занят / занятá / заняты
- 3) 子音の軟化。делать, отдыхать, читать
- 4) 子音の有声化。отдыхать
- 5) 読み方の特例。сейчас [сичас]

これらの単語について注意を与え、コーラスで読む。

3. 文法説明。この課の動詞変化表か、巻末資料の『語形変化一覧表』を参照して、動詞の現在形は主語の性と数に応じて変化することを説明する。
4. 課題1では朗読CDを聞いて、ロシア語のヒントを繰り返し読みさせる。次に、テキ

- ストを聞いて、理解度の確認テストをする。正しい内容の選択肢に印をつける。
5. 課題2ではテキストを日本語に訳す。役割を分担して、テキストを読み合わせる。
 6. 課題3では対話フレーズをロシア語に訳す。次に、イラストの内容に則してペア練習をおこなう。
 7. 課題4では前の課題で訳したテキストを文字で書く。

補足事項

なりきりゲーム。準備教材1で用意したカードを生徒に配布する。生徒は、相手が何をしているのか、電話で聞き合う。手持ちカードに従って回答する。

[質問サンプル] *алло; ты сейчас занят/занята?; что ты делаешь?*

[回答サンプル] *Я читаю книгу.*

第15課 我が家の団らん

学習テーマ 団らん時に誰が何をしているのかを表現する

到達目標

1. 団らんに関する語いと表現を理解し、併せて第3者の話し方を習得する。
2. 動詞の現在形第2変化を理解する。

準備教材

家族写真か、イラスト。メンバーそれぞれが何かをしている。この種の資料は教科書『みんなのロシア語』などに見ることができる。

教材説明

1. この課の「読んでみよう」テキストは、ダイアログ（対話形式）ではなく、モノログタイプ（独白形式）である。
2. 動詞の現在形第2変化を習得する。必要に応じて、巻末資料の『語形変化一覧表』を参照する。

指導事例

1. 第14課の復習。教師は以下のような問いかけを板書する。

[例] *Что он дѣлает?*
Что она́ дѣлает?
Он / Она́ чита́ет?
Он / Она́ слуша́ет му́зыку?
Он / Она́ дѣлает дома́шнее задáние?
Он / Она́ отды́хает?

次に、イラストを見せて質問をおこなう。

2. 以下の新出語いを板書して、発音指導をする。
 - 1) 無アクセント母音 *о*。разговáривать, смотре́ть, телеви́зор
 - 2) 無アクセント母音 *е*。телеви́зор
 - 3) 子音 *л* の発音。гуля́ть
 - 4) 子音の無声化。なお、*в* は唇歯音であることに注意する。всѐ
これらの単語について注意を与え、コーラスで読む。
3. 文法説明。この課の動詞変化表か、巻末資料の『語形変化一覧表 動詞第2変化型』を参照して、動詞の現在形は主語の性と数に応じて変化することを説明する。
4. 課題1では朗読CDを聞いて、ロシア語のヒントを繰り返し読ませる。次に、テキ

ストを聞いて、確認テストに答える。

5. 課題2ではテキストを日本語に訳す。テキストを読む。
6. 課題3では日本語をロシア語に訳す。次に、用意したイラストを見せて、人物が何をしているのかロシア語で言う。ロシア語のヒントなどを適宜参照することを勧める。
7. 課題4では前の課題で訳したテキストを文字で書く。

補足事項

「ある家族の団らん。」本編とは別物の家族写真か、イラストを用意する。但し、それぞれが何かをしている状況が望ましい。教師は以下のような質問をだす。

[例] Что делает вечером дедшка? Что делает вечером папа?

生徒はそれに答える。もし回答できなかった場合は、ペナルティカードを渡す。生徒はカードに記されたことをおこなう。

[例] 1) 「にゃんмяу」「わんわんгав-гав」を5回繰り返す。

2) ロシア語であいさつのことばを言う。

3) ロシア語で自己紹介する。

4) ロシア語で電話をかける。